

「受動喫煙」は深刻な問題だ！

受動喫煙での死者数が、交通事故死者数を超える！

新聞記事によると、煙草の煙を吸わされる受動喫煙が原因で死亡する数が年間6800人になるそうです。その数は、交通事故で亡くなる人数（4914人）を超えるものとなっています。

人間は誰でも健康に暮らすために基本的人権を有しています。その権利を冒さないためにも煙草を吸う人も吸わない人も、自分と相手の健康には十分気を配っていかねばなりません。

ところで記事によると、煙にさらされる場所は家庭よりも職場のほうが3600人と多くなっているそうです。私たちの職場に目を向けると、詰所には喫煙ルームがあり喫煙者にはありがたいものとなっています。しかし、東京第一・第二運輸所の寢室近くには喫煙ルームはなく、喫煙場所から流れてくる煙は寢室の部屋の中まで流れており、吸わない人にとっては迷惑なものとなっています。

受動喫煙死 年6800人

他人のたばこの煙を吸わされる「受動喫煙」が原因で死亡する人は、国内で少なくとも年間約6800人になるとの推計を、厚生労働省の研究班が28日発表した。2009年の交通事故による死者4914人を大きく上回る。

受動喫煙との因果関係がはっきりしている肺がんや虚血性心疾患の死者だけを対象にしており、実際にはもっと多い可能性がある。受動喫煙でこれらの病気になる危険性が1.13〜1.4倍に高まるとした研究や、受動喫煙にあう人の割合を調べた全国調査などから死者数を推計した。

煙にさらされる場所を職場と家庭で分けると、職場が約3600人で多かった。男女別では、非喫煙者の割合が高く、家庭での受動喫煙にあいやすい女性が約4600人と、被害が大きいこともわかった。

交通事故の死者数超す

2010年9月29日、朝日新聞朝刊

他方、列車においては300系、700系に喫煙車両が存在します。車内改札を行う上では声が出にくくなるほど影響を受けています。私は、喫煙号車の改札省略を訴えています。

避けては通れない「受動喫煙」が職場環境に存在するわけですから、会社もこの事実を認め何らかの措置と、現役を退いてから発生する影響も考慮し社員の健康管理について真剣に考えてもらいたいものです。